

様式第 2 号

視察研修先	神奈川県茅ヶ崎市議会	氏名	後藤 健一郎
視察研修項目	1. 一般質問における重複質問の調整について 2. 各委員会での政策討議について		
<p>感想・所見など</p> <p>茅ヶ崎市議会は「議会改革の特色ある取組」として、32もの改革を行っている。本市議会でも既に行っているものもあるが、特に、今、学ぶべき改革として、「17：政策討議について、32：一般質問における重複質問の調整について」の2つについて、研修させて頂いた。</p> <p>1. 一般質問における重複質問の調整について                  「質問は住民を代表して行うものですから、前の議員が質問したことを後の議員が発言することは考えられないことです」（『議員・職員のための議会運営の実際』より）                  茅ヶ崎市議会で、令和元年度に試算したところ、本会議にかかるコストは1時間あたり19万円（会議録作成・映像配信・関係職員の人件費等）。コストに見合う有意義な時間の使い方から、この一般質問の重複調整になったのだそう。</p> <p>確かに、本市議会でも、例えば災害後の一般質問では、同じような質問が並ぶ。現在は、会派内での調整は行っているが、通告を出さない限り他会派所属の議員の質問はわからないため、通告を締め切った後の議運を経て、初めて、他議員の質問内容がわかるために、議場で一般質問が重複してしまう。</p> <p>この点、茅ヶ崎市議会では、本通告の前に仮通告を行い、一旦、誰がどんな内容の一般質問を行うか把握してから、本通告を行うということをやっており、この仮通告で被った場合に調整を行う。</p> <p>調整と言ってもただ単に取り下げるではなく、例えば、同じ水害をテーマにするとしても、一方は直接的な被害、もう一方は避難所などと、一つの問題を重層的に深掘りして聞く事ができるというメリットがある。</p> <p>一方、仮通告を行うにあたり、今よりも2週間程度前倒しが必要となるなど、すぐ行うには課題もある。</p> <p>2. 各委員会での政策討議について                  茅ヶ崎市議会では、平成26年から茅ヶ崎市議会基本条例に基づき、常任委員会ごとにテーマを設定し、調査研究、委員間討議等を経て、最終的に政策提言等を行っていく取組を開始。本市議会でも任期4年中2年毎に常任委員会の改選があり、先進地視察や管内視察、関係団体との意見交換会等を行っているが、その都度、その都度決めており、良くも悪くも「広く浅くまんべんなく」という状態である。</p> <p>私の所属する総務産業委員会では、昨年度、視察には行けなかったが、関係団体との懇談会、そしてその後の政策討議・意見書提出まで行う事ができた。</p> <p>市政に関する重要な課題について、共通認識の醸成を図り、議会から政策提言を行っていくことは、議会として正しい姿だと思われるので、その時の委員長次第ではなく、寒河江市議会</p>			

の取組として定着させるべきである。

これまでの委員会運営と若干違うところはあるが、技術的に難しいことはなく、大きな障害はないので、当市議会常任委員会の今後の運営方法として、すぐに取り入れるべき事だと思った。

様式第 2 号

視察研修先	茨城県取手市議会	氏名	後藤 健一郎
視察研修項目	1. オンラインを利用した議会運営の取り込みについて 2. ICTを活用した市議会の危機対応の取り組みについて		
<p>感想・所見など</p> <p>早稲田大学マニフェスト研究所が毎年、前年 1 年間の全地方公共団体議会の議会活動に関する調査を実施し、数値化してランキングしている「議会改革度調査」。</p> <p>茨城県取手市議会は、「議会改革度調査 2021」で全国 1 位になったが、昨年も同調査で全国 1 位となっており、市議会では初の 2 年連続、全国ランキング 1 位を受賞している。</p> <p>話は少しそれるが、2 年連続 1 位受賞の効果により、全国の議会から視察が相次いでおり、対応してくれた議長が「議会改革は市民の利便性向上のために行ったが、全国から人が来ることで、取手市を PR できるほか、経済面でもプラスになっており、また他議会の視察団をお店や宿泊施設で対応した市民が“視察にいらっしやったの。ウチの議会は有名でしょ。”と話題に上げ、取手市議会を誇りに思ってもらえるという効果もあった」とおっしゃっていた。こういった点も議会改革には非常に重要だと思われる。</p> <p>取組内容は様々で、2021 年度だけでも AI 字幕表示システムや、市民参加型の会議録作成事業、委員会における 360 度カメラの導入など、ICT を積極的に活用し、市民に開かれた議会の実現を目指した活動を実施している。</p> <p>議会でのタブレット導入などは、当市よりも遅かったが、導入後の動き（進化）がもの凄く早い。</p> <p>○AI 認識字幕をライブ配信：ライブ配信画面の下に AI 認識した字幕を表示し可視化。</p> <p>○360 度カメラでライブ配信：本会議や委員会等、会議室のライブ配信映像を視聴者（市民）が自由に上下左右に動かすことにより、傍聴しているよりも詳細に会議を見ることが出来る。</p> <p>AI 認識字幕：視察当日の発言内容をこのシステムによる議事録で頂いたが、精度は満点とはいかないが、それでも瞬時に発言が映像として流れることは非常に有用だと思う。特にネットで傍聴する市民の方はもっと増えるのではないかと思う。</p> <p>360 度カメラでライブ配信：会議室にいるかのような臨場感を感じる事ができるのも有効であるが、私はこのシステムを使って行われた「現地視察」がさらに有用であると感じた。</p> <p>例えば、私が現在所属する総務産業常任委員会では、「市道認定」の際に、現地に行って確認するのだが、人数が多いため時間がかかる。このシステムの場合、現地に担当課員が行き、その映像を議場で見ることが出来る（録画・ライブ）ので、時間効率が上がるうえに、これまでなかなか時間的都合上、現地に行けなかった視察も、審議前に議場で見ることが出来るので、より深い審議をすることができる。</p> <p>また「提出予定議案オンライン事前説明」も秀逸の取組であった。コロナ禍で、できるだけ議場にいる時間を少なくするために、（当市であれば議会初日に）市長や執行部が説明した動画と文章を事前に受け取って、事前に確認し、議場では、説明を省略するという取組である。</p>			

これは、審議をより深化させるには非常に有用であるので、当局側とのすりあわせも必要だが、可能であれば、当市でもすぐにでも取り入れたいと強く感じた。